

対策計画名：京都丹後鉄道を活用した海の京都エリア内オーバーツーリズム対策計画
申請主体：WILLER TRAINS株式会社、対象地域：京都府北部(海の京都エリア)

類型

(一般型)

補助対象経費 総額：75,216,000円

申請補助金額 総額：37,608,000円

現状・課題				現状・問題点			影響を受けている主な対象
■観光客の動向 ・京都府北部(海の京都エリア)の入込客数(宿泊数) ※ 出典元：京都府観光客入込客調査(府観光室)				■現状の分析・課題 ・オーバーツーリズム分散に向けた受入環境整備と、昨年度より運行の大阪からの直通列車への機会への取り組みや、昨年度までの実証による課題の明確化が課題である。			
	2019年	2023年	2024年	観光地の混雑			観光客
入込観光客数	1,437,077	1,351,164	1,538,705	交通の利便性			観光客
国内（人）	1,358,507	1,268,571	1,428,186	受入環境の検証			事業者 自治体 住民
インバウンド（人）	78,570	82,593	110,519				

目指す姿・KGI

■目指す姿

・海の京都DMO等と連携し、オーバーツーリズムが課題の京都市内、伊根、天橋立、城崎温泉からの誘客にあたり、京都丹後鉄道の受入体制の強化を図る。

・丹鉄の受入環境整備と周遊を通し地域を知ることにより、海外インバウンドを中心に上記オーバーツーリズム各エリアからの分散を図ることへ寄与する。

■KGI

①京都丹後鉄道フリーパス利用数(枚数)：

現状値：5,580枚（2025年）／目標値：7,000枚（2026年）

②京都丹後鉄道利用者数(人・年)：

現状値：1,477,492人（2025年）／目標値：1,500,000人（2026年）

KGIの設定理由：

丹鉄利用へ誘導することによるオーバーツーリズムエリアの分散を図るため

KGIの測定方法：効果測定手法：乗車券販売実績（運輸局報告ベース）

実施体制

以下協議会にて議論した施策を事業に盛り込む。

協議会名	北近畿タンゴ鉄道生活交通改善計画に関する協議会
実施方法	既存会議
参画者	<行政機関> 京都府、兵庫県、福知山市、舞鶴市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町、豊岡市 <事業者> 北近畿タンゴ鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社(海の京都DMO)、丹後海陸交通株式会社、日本交通・京都交通株式会社、全但バス株式会社、WILLER株式会社、WILLER TRAINS株式会社 <住民関係者> 京都府立大江高校PTA、宮津市地域女性の会、京丹後市老人クラブ連合会、舞鶴市社会教育委員会、与謝野町地区区会長 <有識者> 京都大学中川名誉教授、龍谷大学井上教授、福知山公立大学谷口教授、京都市観光協会那須氏
住民参画手法	京都府立大江高校PTA、宮津市地域女性の会、京丹後市老人クラブ連合会、舞鶴市社会教育委員会、与謝野町地区区会長が住民代表として協議会の構成員として参画
1回目	北近畿タンゴ鉄道生活交通改善計画に関する協議会（2026年7月頃）
2回目	北近畿タンゴ鉄道生活交通改善計画に関する協議会（2027年3月頃）

過年度の取組概要

・直通特急の運行、アニメキャラクター・プロスポーツチーム・国鉄カラーのラッピング列車の運行、企画乗車券の造成等を実施。結果としてエリア全体への誘客や利便性向上に寄与した。

・しかし反面、インバウンドの急増に伴い、特定地域への一極集中、マイカー流入による交通渋滞、マナー問題などのオーバーツーリズム課題が浮き彫りとなった。

・本年度は、過年度のような「単なる集客・PR目的」の実証から脱却する。今後は「事前マナー啓発」や「マイカーから鉄道へのモーダルシフトを促す手段」として再定義・活用し、海の京都DMOが進める伊根エリア分散対策と連携したオーバーツーリズム解消実証へと事業を進化させる。

対策計画名：京都丹後鉄道を活用した海の京都エリア内オーバーツーリズム対策計画
申請主体：WILLER TRAINS株式会社、対象地域：京都府北部(海の京都エリア)

類型

(一般型)

補助対象経費 総額：75,216,000円

申請補助金額 総額：37,608,000円

事業実施地域・エリア

※地図、観光案内図などを用い、事業を実施するスポット・エリアについて、明記するようにしてください。

※また、過度な混雑やマナー違反行為等の観光課題が確認される場所が分かるように明示していただく他、生じている課題について簡単に解説するようにしてください。

課題

慢性的なオーバーツーリズムによる、交通渋滞、地域住民とのトラブルや旅行者の満足度の低下

伊根の混雑(引用：京都新聞)



取組内容

補助対象経費：16,000,000円
申請補助金額：8,000,000円

②オーバーツーリズム分散拠点整備事業

天橋立駅において代替交通(船・バス)、手荷物預かり等の情報およびマナー啓発の発信、駅リニューアル等を通じた回遊拠点としての受入環境の整備

リアルタイム運行情報発信
(イメージ)



天橋立駅リニューアル
(イメージ)



①～④の各取組に係る調査、分析

海の京都エリアへの往訪客向けに各取組を通じアンケート等を通じた調査を実施し、オーバーツーリズム解消や利便性向上等の意見や課題を抽出する

取組内容

補助対象経費：31,500,000円
申請補助金額：15,750,000円

①マナー啓発と丹鉄沿線の回遊性向上促進事業

マナー啓発ポスター、混雑地を避けた分散型デジタルスタンプラリー、フリーパス、プロモーション等の実施(主なターゲット：インバウンド)

マナー啓発広告・フリーパス(イメージ)



(引用：東京都HP)

取組内容

補助対象経費：17,716,000円
申請補助金額：8,858,000円

③鉄道へのシフトによる交通渋滞緩和と事業

大阪からの直通列車、宮津線100周年等との連携機会を活用しマイカー利用からのシフト促進(主なターゲット：インバウンド・国内客)

宮津線100周年記念
ヘッドマーク



連携イメージ



取組内容

補助対象経費：10,000,000円
申請補助金額：5,000,000円

④乗継ぎ不安解消に向けた取組事業
丹鉄全線でスマホ等で閲覧可能なリアルタイム運行表示を多言語化含め整備。特定スポット滞留の阻止と広域回遊の促進(主なターゲット：インバウンド・国内客)

リアルタイム運行表示(イメージ)



補助事業名：マナー啓発と丹鉄沿線の回遊性向上促進事業

補助対象事業者名：WILLER TRAINS株式会社

対策計画名：京都丹後鉄道を活用した海の京都エリア内オーバーツーリズム対策計画

申請主体：WILLER TRAINS株式会社、対象地域：京都府北部(海の京都エリア)

類型	補助対象経費：31,500,000円
(一般型)	申請補助金額：15,750,000円

事業目的	KPI（事業目標設定）
【目的】 ・京都市内等から訪れるインバウンド客の急増に伴うマナー課題や、特定スポット（天橋立・伊根）への滞留を未然に防ぐことを目的とする。 ・世界的に認知度の高いキャラクターを起用し、言語の壁を越えた「到着前の事前マナー啓発（車内や駅等）」を実施することで地域住民との共生を図る。 ・混雑地を避けた分散型デジタルスタンプラリー等によりインバウンド客の動線をコントロールし、鉄道を活用した広域周遊（エリア内分散）を促進する。 【主なターゲット】 インバウンド ※なお、各事業はそれぞれ連携して実施する。	・専用企画乗車券の販売枚数:3,000枚(A) 現状値：1,950枚 ・マナー向上への認知、理解の拡大：5点満点中、平均4点以上(B) 現状値：現状値なし(アンケート未実施) ・ラッピング列車運行およびデジタルスタンプラリーによる回遊性の検証 ：沿線各スポット立ち寄り箇所増+10% (B) アンケート時に、本施策をある／なしでそれぞれスポットを回答し比較する。 KPI計測方法： A：自社利用実績よりカウント B：アンケート調査等

マナー啓発と丹鉄沿線の回遊性向上促進事業（インバウンド）	
概要	・鉄道車内や駅等でのマナー啓発を行い、地域住民との共生を図る ・天橋立、伊根の混雑を避けるルートで設計したスタンプラリーやフリーパスを造成し広域回遊を図る
実施内容	・ラッピング列車の運行 ・スタンプラリーの開催 ・企画乗車券の発売 ・フォトスポットの設置 ・企画乗車券の多言語表記 ・プロモーションの実施 ・アンケート等による調査、分析
実施時期	・いずれも令和8年10月～令和9年1月（予定）
本施策の選定理由	・台湾や香港からのインバウンドが増えており、そこに関心の高いツールを活用することで効率的な集客につなげるため
本実証の優位ポイント	・3回目の取組であり、台湾などの海外を中心に一定の認知がある点より訴求および効果が期待されると想定している。
過年度実施事業との違い	キャラクター活用により誘客には一定の成果が出た。昨年度までの「集客施策」から今年度は「分散誘導・マナー啓発」転換し、オーバーツーリズムの未然防止と回遊性向上へ移行する。 また周辺住民においても周辺道路の渋滞が課題となっており、鉄道を含めた公共交通へのシフトも講じていく。

取組内容

マナー啓発車内ポスター
(イメージ)

(引用:東京都HP)

ラッピング列車 (イメージ)

→本事業へ認知度向上へ寄与

企画乗車券 (イメージ)

→広域回遊を図る

（京都丹後鉄道全線）

・スタンプラリーの開催

・企画乗車券の発売

・企画乗車券の多言語表記

（西舞鶴～豊岡）

・ラッピング列車の運行

・フォトスポットの設置

フォトスポット
(イメージ)

過年度の同様の取組の有無	※申請者（又は実施体制内に記載された者）が実施地域において過去2年以内に実施した取組を中心に記載すること。			その他の事項
✓ ラッピング列車の運行	広域連携観光戦略への記載	—	地域一体型との連携	○(京都府・舞鶴市・宮津市・京丹後市・伊根町、兵庫県・豊岡市)
	事前着手の有無	—	複数年度の計画申請	—

補助事業名：オーバーツーリズム分散拠点整備事業

補助対象事業者名：WILLER TRAINS株式会社

対策計画名：京都丹後鉄道を活用した海の京都エリア内オーバーツーリズム対策計画

申請主体：WILLER TRAINS株式会社、対象地域：京都府北部(海の京都エリア)

類型	補助対象経費：16,000,000円
(一般型)	申請補助金額：8,000,000円

事業目的	KPI（事業目標設定）
【目的】 路線バスの混雑やマイカー渋滞の起点となっている天橋立駅を、単なる通過点から「オーバーツーリズム対策の戦略的ハブ（分散拠点）」へと再整備することを目的とする。直通特急等での到着客に対し、ソフト・ハード両面方の取組を推進すると共に、駅降車時においておもてなしの空間を演出することで、天橋立駅の付加価値、ゲートウェイ機能および、周辺エリアへの分散誘導促進の役割を果たしていく。 【主なターゲット】 インバウンド、国内旅行者 ※なお、各事業はそれぞれ連携して実施する。	・天橋立駅利用者数 昨対比105%（リニューアル後1か月の昨対比）（A） 現状値：129,198人 ・駅の利便性向上による満足度 5点満点中、平均4点以上(B) 現状値：なし(アンケート未実施) KPI計測方法： A：自社利用実績よりカウント B：アンケート調査等

事業概要（主なターゲット）	取組内容
オーバーツーリズム分散拠点整備事業（インバウンド・国内客）	リアルタイム運行情報 (イメージ) →駅にQRコード掲出 運行情報 Train Status information 運行情報 運行実績 定額 時刻 フォトスポット (イメージ) 駅リニューアル (イメージ)
概要	・天橋立駅は直通特急の終点駅であり、分散の拠点（ハブ）と位置づけソフト・ハード両面の整備を行う。 ・また海の京都エリア周遊の拠点としてシンボルとなるような付加価値をつける。 駅に到着し列車から降りた瞬間からおもてなしの空間を演出する
実施内容	(ソフト面) ・各種情報発信（リアルタイム運行情報、代替交通の案内） ・多言語化対応 ・手荷物預かり等との各種情報連携 (ハード面) ・天橋立駅リニューアル（ベンチやタペストリー、壁面ラッピング） ・フォトスポット等の設置 ・アンケート等による調査、分析
実施時期	・令和8年度秋頃実施予定
本施策の選定理由	・既に個々（丹鉄・海の京都DMO等）で推進していたが、分散観光の拠点として更なる連携が必要であるため
本実証の優位ポイント	・天橋立駅は京都、大阪からの直通特急利用者を中心としたゲートウェイであり、整備を行うことによる分散観光の効果が高いと想定されるため
過年度実施事業との違い	昨年度にインバウンド向けに多言語表記看板を設置し、本年度はさらにエリア内の情報を発信するなどの拠点化を行う。

過年度の同様の取組の有無	※申請者（又は実施体制内に記載された者）が実施地域において過去2年以内に実施した取組を中心に記載すること。			その他の事項
✓ インバウンド向け多言語案内看板の設置	広域連携観光戦略への記載	—	地域一体型との連携	○(京都府/舞鶴市・宮津市・京丹後市・伊根町、兵庫県/豊岡市)
	事前着手の有無	—	複数年度の計画申請	—

補助事業名：鉄道へのシフトによる交通渋滞緩和事業
補助対象事業者名：WILLER TRAINS株式会社
対策計画名：京都丹後鉄道を活用した海の京都エリア内オーバーツーリズム対策計画
申請主体：WILLER TRAINS株式会社、対象地域：京都府北部(海の京都エリア)

類型	補助対象経費：17,716,000円
(一般型)	申請補助金額：8,858,000円

事業目的	KPI（事業目標設定）
【目的】 都市圏から伊根・城崎等の混雑地へマイカーで直接乗り入れる旅行者によって引き起こされる深刻な交通渋滞を解決するため、鉄道利用への転換を推進することを目的とする。宮津線100周年等の企画を単なる集客の手段とするのではなく、マイカー層を直通特急等の鉄道利用へ行動変容させるフックとして最大限活用し、自動車の流入抑制による広域的な交通渋滞の緩和と環境負荷の低減を図る。 【主なターゲット】 インバウンド、国内旅行者 ※なお、各事業はそれぞれ連携して実施する。	・宮津線沿線利用者数 昨対比105%（イベント期間中の昨対比）（A） 現状値：224,872名（R7/11-R8/1輸送人員計） ・各企画を通じた鉄道利用シフトへの理解度 5点満点中、平均3点以上(B) 現状値：なし(アンケート未実施) KPI計測方法： A：自社利用実績よりカウント B：アンケート調査等

事業概要（主なターゲット）	取組内容												
鉄道へのシフトによる交通渋滞緩和事業（インバウンド・国内客） <table><tr><td>概要</td><td>・大阪からの直通特急、宮津線100周年記念等と連携し、京都丹後鉄道の魅力を高めることにより、マイカー利用から鉄道へシフトさせ、広域的な渋滞緩和を図る ・①の取組と同様に、回遊性向上への取組も行う</td></tr><tr><td>実施内容</td><td>・海上自衛隊舞鶴総本部との連携 ・丹鉄周遊企画の開催 ・都マグロ列車 ・上記に関する駅賑わいの整備 ・アンケート等による調査、分析</td></tr><tr><td>実施時期</td><td>・令和8年8月以降（予定）</td></tr><tr><td>本施策の選定理由</td><td>・自衛隊とのコラボは初の試みであり、京都丹後鉄道利用による観光客分散に資する取組である。また海上自衛隊からも連携に前向きであることから、国内客を中心とした観光面だけでなく、自衛隊への認知向上にも貢献できる取り組みであるため</td></tr><tr><td>本実証の優位ポイント</td><td>・宮津線100周年の節目と各者コラボレーションによる交通渋滞解消への効果が高いと想定され、鉄道ファンだけでなく、自衛隊ファンなど幅広い層に対し本事業へ訴求ができる点</td></tr><tr><td>過年度実施事業との違い</td><td>過年度の地域の魅力をPRするイベントとしての位置づけだけでなく、鉄道利用の価値を高め、鉄道利用促進を推進し、エリア内の分散した周遊を促す取り組みである。</td></tr></table>	概要	・大阪からの直通特急、宮津線100周年記念等と連携し、京都丹後鉄道の魅力を高めることにより、マイカー利用から鉄道へシフトさせ、広域的な渋滞緩和を図る ・①の取組と同様に、回遊性向上への取組も行う	実施内容	・海上自衛隊舞鶴総本部との連携 ・丹鉄周遊企画の開催 ・都マグロ列車 ・上記に関する駅賑わいの整備 ・アンケート等による調査、分析	実施時期	・令和8年8月以降（予定）	本施策の選定理由	・自衛隊とのコラボは初の試みであり、京都丹後鉄道利用による観光客分散に資する取組である。また海上自衛隊からも連携に前向きであることから、国内客を中心とした観光面だけでなく、自衛隊への認知向上にも貢献できる取り組みであるため	本実証の優位ポイント	・宮津線100周年の節目と各者コラボレーションによる交通渋滞解消への効果が高いと想定され、鉄道ファンだけでなく、自衛隊ファンなど幅広い層に対し本事業へ訴求ができる点	過年度実施事業との違い	過年度の地域の魅力をPRするイベントとしての位置づけだけでなく、鉄道利用の価値を高め、鉄道利用促進を推進し、エリア内の分散した周遊を促す取り組みである。	100周年記念ヘッドマーク  きぐるみの出迎え（イメージ）  連携イメージ  100周年記念ヘッドマーク （京都丹後鉄道全線） ・謎解き周遊イベントの開催 ・都マグロ列車 ・オリジナル着ぐるみのお出迎え （西舞鶴～豊岡） ・海自コラボリング列車の運行 
概要	・大阪からの直通特急、宮津線100周年記念等と連携し、京都丹後鉄道の魅力を高めることにより、マイカー利用から鉄道へシフトさせ、広域的な渋滞緩和を図る ・①の取組と同様に、回遊性向上への取組も行う												
実施内容	・海上自衛隊舞鶴総本部との連携 ・丹鉄周遊企画の開催 ・都マグロ列車 ・上記に関する駅賑わいの整備 ・アンケート等による調査、分析												
実施時期	・令和8年8月以降（予定）												
本施策の選定理由	・自衛隊とのコラボは初の試みであり、京都丹後鉄道利用による観光客分散に資する取組である。また海上自衛隊からも連携に前向きであることから、国内客を中心とした観光面だけでなく、自衛隊への認知向上にも貢献できる取り組みであるため												
本実証の優位ポイント	・宮津線100周年の節目と各者コラボレーションによる交通渋滞解消への効果が高いと想定され、鉄道ファンだけでなく、自衛隊ファンなど幅広い層に対し本事業へ訴求ができる点												
過年度実施事業との違い	過年度の地域の魅力をPRするイベントとしての位置づけだけでなく、鉄道利用の価値を高め、鉄道利用促進を推進し、エリア内の分散した周遊を促す取り組みである。												

過年度の同様の取組の有無	※申請者（又は実施体制内に記載された者）が実施地域において過去2年以内に実施した取組を中心に記載すること。		
✓ 周年イベントの開催	その他の事項	広域連携観光戦略への記載	—
	事前着手の有無	—	地域一体型との連携
		—	○(京都府/舞鶴市・宮津市・京丹後市・伊根町、兵庫県/豊岡市)
		—	複数年度の計画申請
		—	—

補助事業名：乗継ぎ不安解消に向けた取組事業
補助対象事業者名：WILLER TRAINS株式会社
対策計画名：京都丹後鉄道を活用した海の京都エリア内オーバーツーリズム対策計画
申請主体：WILLER TRAINS株式会社、対象地域：京都府北部(海の京都エリア)

類型	補助対象経費：10,000,000円
(一般型)	申請補助金額：5,000,000円

事業目的

【目的】
日本の鉄道に不慣れなインバウンド客や都市圏からの来訪者が抱える、見知らぬ土地での遅延や乗り継ぎへの不安をDXの活用により解消し、移動ストレスを軽減することを目的とする。多言語対応のリアルタイム運行表示システムを導入することで、旅行者が特定スポット（天橋立等）に過度に滞留することを防ぎ、周辺エリアへも安心して足を延ばせる環境を提供することで、鉄道を軸とした広域的な分散周遊を促進する。

【主なターゲット】
インバウンド、国内旅行者

※なお、各事業はそれぞれ連携して実施する。

KPI（事業目標設定）

・本取組による満足度 5点満点中、平均4点以上
・鉄道利用促進への意見のとりまとめ
現状値：なし(アンケート未実施)

KPI計測方法：アンケート調査等

事業概要（主なターゲット）	
乗継ぎ不安解消に向けた取組事業（インバウンド・国内客）	
概要	・インバウンド客が抱える見知らぬ土地での乗り継ぎへの不安をDXで解消し、滞在が集中する天橋立エリアから、与謝野・京丹後などの周辺エリアへ安心して足を延ばせる環境を構築し、広域分散を検証する。 ・運行状況の乱れに伴う問い合わせを低減させる
実施内容	・宮福線、宮舞線、宮豊線各線の駅と、現在の走行列車がどの位置にいるのかホームページ等で掲示。 ・全駅にリアルタイム運行表示ページにアクセスできるようにQRコードを設置。 ・多言語対応を行う ・アンケート等による調査、分析
実施時期	・令和8年秋冬公開予定
本施策の選定理由	・現在の運用よりもリアルタイムの情報を提供することによる利便性の向上効果が高いと想定されるため ・台湾、アジア、欧米を中心にインバウンド客が増えていることより、鉄道利用の利便性促進に取組む必要があるため ・不安解消により回遊性向上にも期待できるため ・駅係員の負担軽減にも繋がるため
本実証の優位ポイント	・天橋立駅などのゲートウェイでは分散観光の効果が高いと想定されるため ・京都丹後鉄道を利用する地域住民へも効果が高い点
過年度実施事業との違い	過年度は企画乗車券などシームレスな乗り継ぎ不安を解消した。本年度は列車の運行を可視化することで、さらなる乗り継ぎ不安を解消するための新規の取組である。

取組内容

主な機能

全駅にリアルタイム運行表示ページにアクセスできるようにQRコードを設置

過年度の同様の取組の有無		その他の事項		
✓ 無し		広域連携観光戦略への記載	—	地域一体型との連携
		事前着手の有無	—	複数年度の計画申請
		○(京都府/舞鶴市・宮津市・京丹後市・伊根町、兵庫県/豊岡市)		